

平成 27 年度第 1 回浦安市文化財審議会議事録（議事要旨）

1 開催日時 平成 27 年 5 月 20 日（水） 午前 10 時～12 時

2 開催場所 郷土博物館 視聴覚室

3 出席者

（委員）平野敏則委員長、杉山徳生委員、丸山光子委員、丸山純委員、吉田敦委員、大塚三枝子委員、菊池眞太郎委員

（事務局）細田教育長、小鍛冶理事、石田生涯学習部長、永井生涯学習部次長、飯塚館長、池田主査、島村、林（記）

（細田教育長、小鍛冶理事、石田生涯学習部長、池田主査 途中退席）

（傍聴人）なし

4 議 事

- (1) 平成 26 年度 浦安市文化財審議会の報告について
- (2) 平成 27 年度 浦安市文化財審議会の年間計画について
- (3) 平成 26 年度 郷土博物館・文化財住宅の利用状況及び事業報告について
- (4) 平成 27 年度 郷土博物館の年間計画について
- (5) 浦安市郷土博物館の活性化について(検討)

5 会議経過

会議に先立ち、人事異動に伴う職員紹介(細田教育長、小鍛冶理事、池田主査)を行った。開会后、平野委員長、細田教育長があいさつを行った。

(1) 平成 26 年度 浦安市文化財審議会の報告について

配布資料に基づき、事務局より説明した。

質疑・応答はなく、承認された。

(2) 平成 27 年度 浦安市文化財審議会の年間計画について

配布資料に基づき、事務局より説明した。

主な質疑・応答については、下記のとおり。

（委員） 第 3・4 回の会議計画について内容が書かれていないが、どういうことか？

（委員） 会議予定の内容の覧に何も書いていないのはまずいのではないか？

（事務局） 本日の会議で、「博物館の活性化について」議論いただくが、その結果を踏まえて具体的な課題を検討したいと思い、記入していない。

（委員） 文化財審議会は、博物館のことだけでなく、文化財のことについて審議する場であるはずである。文化財について、今予想される議題はないのか？

（事務局） 文化財審議会は、教育委員会からの諮問に応じて答申をするというのが一つの目的。もう一つが、文化財の保存・活用について自ら建議するということがあるので、この場で承認いただけるのであれば、第 3・4 回は、「文化財の保存・

活用について」ということを付け加えさせていただきたい。

(委員) 「博物館の活性化について」という議題は、いつまでにどうまとめる予定なのか?

(事務局) 前回の会議で委員の皆様に出していただいた意見について、具体的な方策を含めて整理していただき、そのまとめた内容を教育委員会に報告したいと考えている。できれば、3回目の会議でこの議題は終了したい。

(3) 平成 26 年度 郷土博物館・文化財住宅の利用状況及び事業報告について

配布資料をもとに、事務局より説明した。

主な質疑・応答については、下記のとおり。

(委員) 課題として「大人の利用者が少ない」と書かれているが、大人の入館者を集めることは難しいのか?

(事務局) まち歩きや団体やデイサービス利用などがあるので、特に減少しているというわけではないが、新しい魅力を打ち出していないと、博物館に関心をもってもらえるようにはならないと感じている。

(委員) 資料にある「教員研修」について、詳細を説明してほしい。子どもたちを博物館に連れてくるための事前準備の学習という意味か?

(事務局) 教員に基礎的なことを学んでいただき、博物館に来る前に学校で行ってくる事前学習、あるいは博物館で体験学習をして学校に帰ってから行うまとめの授業内容を深いものにするため、夏休みの期間などを利用して、集中的に教員研修を行っている。そのほか、学校の教員に対しては、『博物館活用の手引き』(冊子・CD)というものを作成して各学校に配布しており、活用いただくよう周知している。

(委員) それらが実際にどう活用されているのか、その実態を把握しているのか?

(事務局) 郷土博物館活用推進委員会という組織があり、各学校から1名ずつ出席いただき、年6回ほどの会議を行っている。そのなかで、毎年第一回目の会議で、この手引きを使って博物館の利用を検討いただきたいという案内は行っている。これを見て、実際に足を運んでくれているのかどうかという追跡調査までは行っていない。

(委員) ディズニーランドでも、小学校が活用するための手引きをつくっており、ディズニーランドを使ってどういう学習ができるのか、具体的に書かれた内容になっている。学校活用担当部署の職員が学校へ訪ねていき、その手引きやDVDを実際に教員に見せながら説明するということまでやっている。ただ立派な教科書(手引き)をつくって配った、ということだけでは意味がない。その教科書をつくった活動、プロセスそのものが大切であり、なおまた、それを使ってPR活動していくということまでを行うことが重要である。

(委員) 企画展「浦安の農業」の入場者数が少ないが、どのように考えているか?

(事務局) 海苔展は、海苔すき体験授業のなかで展示解説を入れているため、入場者数の

単純比較はできない。新聞やケーブルテレビなどでも取り上げてもらったが、「浦安と農業」ということが結びつかなかったためか、予想よりは少なかった。

(委 員) 大人の入館者を増やすには、企画展が大きな役割を担う。あらかじめ入館者数の見込みを想定して、企画展内容を検討するという考え方を組み入れる必要もあるだろう。

(委 員) 「知恵を絞る」ということが大切である。今、農業展と海苔展を比較されたが、農業が約1ヶ月、海苔が約3ヶ月。農業展の入館者数を3倍すると、海苔を超えている。つまり、両方とも低調であったということである。

「ふるさと浦安作品展」は、一ヶ月に満たない期間であるけれども、入館者数がある。この差は何だろう？ということを考えてみると、何がが見えてくるのではないか。つまり、地味な展示と、「うちの子どもの作品があるよ」ということとの違い、こう考えると何がが見えてこないか。

(4) 平成27年度 郷土博物館の年間計画について

配布資料をもとに、事務局より説明した。
主な質疑・応答については、下記のとおり。

(委 員) 公民館との共催事業は大切な試みと思うが、今年度については昨年度の事業結果を踏まえて計画したものなのか？

(事務局) 広報・募集は公民館、講師は博物館が調整するという形で、昨年度から準備を進め、それに対して予算づけを行い、今年度の事業を計画している。

(委 員) 宿泊体験について、風呂はどうするのか？

(事務局) かつては銭湯に行っていたのだが、博物館近くの銭湯が閉店してしまった。現在も営業している銭湯に行くには距離があるため、往復時間を含めると少なくとも1時間30分くらいはかかってしまうだろう。銭湯体験も貴重なのだが、夜の文化財住宅で過ごす時間を大切にしたいと考えているため、どうしても風呂に入りたいという子どもは博物館のシャワーを利用させて対応したい。

(委 員) 文化財住宅のお泊り会は、現在もやっているのか？

(事務局) やっている。日程などは、重ならないよう公社と調整して決めている。

(委 員) 大人向けに宿泊体験をやってみたらどうか。

(事務局) 震災前までは、夏休みは子どもの宿泊、秋は3家族を募集して、家族で泊ってもらおうという宿泊体験をずっとやっていた。今年は、まずは子どもの宿泊体験を復活させ、職員体制など諸条件を揃えて追々考えていきたい。

(委 員) 企画展が「調整中」となっているが、いくつか案が出ているのか？

(事務局) まだ決まっていない。

(委 員) なんでもかんでも、学芸員がやらなくてはいけないと考える必要はない。

以前、八千代市の資料館で「私の文化財」という企画展をやっていた。市民が自分の大切にしているものを持ち寄り、それにまつわる思いなどを解説パネルで紹介していた。それらのパネルも市民ボランティアがつくっていたようで、大変感

銘を受けた企画展であった。そういう考え方で、企画してみるのもよいのではないか。

(委員) 「もやいの会」も、高齢化が進み新しい人を入れたいが、入りたいという方もまた高齢だという話を聞いたことがあるが、どのように考えているのか？

(事務局) 漁業を経験されてきた方々の活動と同じことを継続していきたいと思っても無理があるということは、我々も承知している。新しい層の人たちをボランティアとしてどう育成するのかという点については、「もやいの学校」事業を通して行っているほか、最近是有志の市民が集まった「博物館応援の会」というグループができ、自分たちの研究発表を行ったり、カルタをつくったりするというような計画を立てて活動している。また、昨年からは、役所の若い職員や環境関係のボランティアに声をかけて、べか舟乗船の練習を毎月行うなどしている。

(委員) 旧町だけにこだわらず、新しい方々を入れていくことが大切だと思う。

(委員) 少し戻るが、以前の審議会で、足立区の博物館に視察に行ったことがあった。他館を見学して運営状況を参考に議論するのもいいのではないか。視察となると一日かかってしまうため、年4回の文化財審議会の会議のなかで時間的な調整するのはむずかしいかもしれないが、そのようなことを組み入れてもいいと思う。

(5) 郷土博物館の活性化について(検討)

前回の審議会で出た意見を項目ごとに整理した資料に基づき、意見を提出した本人に詳細を確認した上で意見を出し合い、具体的方策を検討した。

主な質疑・応答については、下記のとおり。

(委員) 「産業や観光ともリンクできる可能性を秘めている」という意見について、具体的にはどういうことができそうだと考えているのか、聞いてみたい。

(事務局) 例えば、鉄鋼団地や魚市場などをテーマにしたらどうか。昔の漁業だけでなく、現在進行形の浦安の重要な産業についても、子どもたちに興味をもってもらい、次の浦安を考えるきっかけになると思う。また、子どもたちがそれを学んで外に発信できるように、博物館で何かできないかと考えた。

(委員) 可能性がありそうということだけでなく、それをどうやっていくのかという具体的な方法を話し合っていく必要がある。

(事務局) 今年度は、夏休みに鉄鋼団地を見学するような事業を計画している。3年ほど前には、鉄鋼団地から鋼材などをいただき、夏休み期間中に展示して紹介するようなことも行っている。

(委員) 博物館を活性化させるために、それらの成果をどうつなげていくのか、ということを考えてみればいいのではないか。例えば、それをテーマに、鉄鋼団地の方々に関わっていただいて企画展を開催してもよいのではないか。

(委員) 「実は東京湾はすごい海だと学べる博物館」という意見について、具体的にどう

いう戦術を考えているのか？

- (事務局) 埋め立てにより、コンクリートの護岸で隔てられ海と接する機会が失われ、市民の意識も海から離れてしまった。しかし、現在も海苔はもちろん、スズキの水揚げ量は東京湾が日本一である。こういうことをアピールしながら、市民の実生活、「食」につなげていきたい。
- (委員) そのための戦術は？アイデアを具体的に出すことが大切で、自分だけで考えるのではなく、いろいろな人からアイデアを出してもらうことが必要である。アイデアを出してくれるということは、なんらかの形で関わってくれるということなのだから。
- (委員) それに関連して、「屋外展示場の境川を活用する、例えば、浦安にいた魚(ハゼ、アジなど)を放流して釣堀として市民に開放する」という意見がある。そこにさらにプラスして、捌き方を教えて天ぷらにして食べさせるところまで行えば、もっと「食」を実感できるのではないか。
- (委員) 「博物館は、いろいろな情報の発信源になる」ということだと思う。「浦安に関するさまざまな情報をどう発信していくか」ということが問われている。例えば、先ほど話題に出た鉄鋼団地の件にしても、人文系出身の学芸員では手に負えないようなことでも、ボランティアや市民のなかに鉄鋼関係の仕事をなさっていた方などもあると思うので、そのような人たちの力を活用すればよい。
- また、展覧会だけが発信の手段ではないと思う。ミニ新聞とかミニチラシをつくるなど、手づくりでもできることはあるだろう。市場の件も、公共機関なので、特定の会社や店を紹介することはできないが、市域のなかの特徴ある地域や施設という観点で取りあげることではあるだろう。
- 展覧会を待っていたらいつになるかわからないということにもなりかねず、結局PRし損なってしまったというのでは困る。
- (委員) 『青べか物語』のなかでも、天ぷらや釣りをするシーンがたくさん出てくるので、料理をして食べるような体験型プログラムと『青べか物語』をくっつけて企画してみるのもいいのではないか。
- (委員) 先ほど話にでた鉄鋼団地だが、「鉄鋼会館」という施設がなかにある。「浦安で扱っている鋼材がこれだけあるんだ」ということを紹介するコーナーがそこにほしいと思い、以前関係者に提案したことがある。しかし、相当の種類があるそうで、それだけでも広いスペースが必要になるとのことだった。鋼材はその会社によって扱っている種類が違うので、一社、二社だけ回ったとしても多くの種類の鋼材を見ることはできないとのことだった。
- (委員) コンテンツは向こうにたくさんあるのだから、関係者の方々とどう協力関係を結んでいくか、ということだけだと思う。このテーマで、展示の一つ二つはできるのではないか。鉄鋼団地は、浦安の重要な歴史である。秋の企画展に向けて、早めに話をしてみる必要があるのではないか。
- (委員) 私が提案した『浦安町統計一覧表』も分析結果を発表。ただし、学生主体型授業の方式をとる」ということについて。この統計の分析結果と『青べか物語』をつけて、講座などをやることはできる。

大学の授業のなかで、一つの表・データを学生に与えて、その表について数人のグループで議論させ、その結果を発表させるということをやっている。機会を与えていただけなのであれば、子ども対象でも、大人対象でも実施できる。

この統計分析に、『青べか物語』を組み込めば、面白いのではないか。『青べか物語』は文学作品ではあるけれども、ある程度は史実を表すものとして読み込むことができると思う。

(委員) 研究成果を、市民にわかりやすくどう説明できるかが課題である。屋外展示場の天ぷら屋は、『青べか物語』についての展示場になっており、テーブルの上のメニュー表を開くと読み物になっている。そういうところに、入れ込んでみていいのではないか。

(委員) もやいの会(婦人の会)として、小学生の授業や郷土料理教室のなかで貝むきをして、それを料理し食べさせるという体験のお手伝いをしているのだが、そういう機会をもっと増やしていったらどうか。

(事務局) 今年度、公民館と共催で行う事業として、郷土料理教室を何回か開催する。博物館で待っているだけでなく、公民館へ出て行って、PRするという取り組みを始めるところである。

(委員) 浦安は、確かに貝の町だったけれども、漁業権放棄後は浦安でアサリをとることはできなくなってしまった。将来性ということを考えると、アサリのことよのだが、鉄鋼団地のことなどをテーマに取り上げていく方がよいのではないか。

(委員) 鉄鋼団地の展示をできるとしたら、かつてアサリがとれた場所が今こうなったのだ、ということを入れることが大切なのではないか。そういうことこそ、博物館で取りあげるべきなのではないか。

(委員) 「あっさり君のお相手キャラ『しみじみちゃん』を設定」という意見について、しみじみちゃんというのは、シジミのことか？提案された方に伺いたい。

(委員) もちろん、シジミ。「あっさり」に対して、「しみじみ」というのもいいかと思って、提案してみた。うまく活用できそうであれば、こういう新キャラクターをつくるのもよいのではないか。

(委員) 「現状展示でも十分に活用できる」という意見は、私が提案した。先日、東京都美術館で開催している「大英博物館展」に行ってきたのだが、大変感銘を受けた。展示物の一つ一つに気の利いたキャッチコピーがついており、それを見ると、もっと詳しく知りたいという気持ちになり、自然と解説文を読みたくなってしまった。このように、理解してもらうための工夫をすれば、現在の展示でも十分に活かすことができるはずである。見ている人の「?(ハテナ)」を喚起するような工夫が大切である。しかし、それらを全部学芸員に求めても無理である。だから、協力してもらえる人にアイデアを出してもらおうということがまず必要だと思う。

(事務局) 「博物館をどう活性化させるのか?という問いではなく、浦安が現在抱える地域課題に博物館をどう活かすことができるのか?という問いから出発すると、博

博物館が果たすべき役割、方向性が見えてくるのではないか」という意見について。浦安は現在、高齢化、孤立化、コミュニティ不足などの問題を抱えおり、漁師町時代にあった「粋」や「気風のよさ」というようなものが失われてしまったのだということに改めて気づく。そう考えると、「笑いと笑顔をメインテーマの一つに」という意見も出ているように、「博物館に来れば、笑いを通して新しい発見がある」というようなことになれば、今の浦安の問題を解決していく糸口になるのではないかと思う。そういう目で見えていくと、今回提案いただいたそれぞれの案をさらに整理してまとめて直してみれば、博物館を活性化させるための方向性がもっと具体的に見えてくるのではないか。そして、さらにいろいろな案が出てくるようにも思う。

前回提案いただいた案と今回いただいた意見をもう少し整理してまとめ直したものを事務局が作成し、次回の審議会ではそれをたたき台にして検討いただくということにしたいと思う。

(委員) 今のことに関係するのだが、「もやいの学校」を運営していくなかで、過去を学ぶということだけではなく、これから我々が生きていく上で重要になっていくだろうと思われること、あるいは解決すべき地域課題のようなものについて、新たに見えてきたことや感じていることなどがあるのではないかと思うが、最後に担当者に伺っておきたい。

(事務局) 「もやいの学校」は今年で4年目で、参加者は70才台の中町・新町の移住第一世代の住民が多いが、浦安への愛郷心が地元の人に負けないほどに強いと感じる。それは浦安の発展が自分自身の人生と重なるからではないか。

昨年度から中町住民への聞き取り調査を始めたが、そのなかで元々の浦安町民に優先的に分譲された地区があり、その地区の方で、もとは他地域出身で元町で商売を始めて成功した方も数多いということに初めて気付いた。これらの方の浦安への愛郷心も強い。

こうした方々に博物館で自分たちが経験した町の歩みを子供達や来館者に語っていただくと、それは地区の高齢化や高齢者の孤立化の問題の解決や予防にも効果があるのではないか。

中町の方々のなかにも、自発的に移住当時の写真や住宅購入のチラシを持って来られる方もあり、思った以上に当時の話をしてくださる。

現在は「漁師時代の文化を残す」ことから「埋め立て当初の問題」へと、資料収集や研究テーマの軸を移して行こうとしている。

「もやいの学校」は、運営自体を市民自らの手でやっていくことを目標としており、そのため講座やイベントの下準備や当日の実務は受講生にお願いしている。今後の課題としては、実際のところ受講生にリピーターの方が多く、新たな受講生を対象を広げて行くのにはどうしたらよいかを模索している。

(委員) 27年度の審議会は、「文化財の保存活用」と「博物館の活性化」について継続して審議していくということにしたい。

(6) その他

■ 次回の会議

第2回浦安市文化財審議会は、7月15日(水)を予定。

以上をもって、平成27年度第1回浦安市文化財審議会は、閉会した。